

連携ニュース

てんじん

独立行政法人
国立病院機構 甲府病院
（山梨県甲府市東町十五丁目五番五号）
電話055-253-6131（代表）
発行責任者
院長 長沼博文

2006年9月1日発行
第9号

<http://www.hoso.go.jp/~kofu/>



診療報酬改定と

DPC導入

病院長 長沼博文

多くの病院は暑く苦しい夏を迎えていることと思います。本年4月から診療報酬が大幅にマイナス改定（▲二・一六％）されました。これまでのところ全国的に平均三％位診療報酬額が減少しているようです。医師不足、看護師不足と相まって、多くの病院が経営に苦慮しています。小児科と産婦人科に関しては、全国的な医師不足問題もあり診療報酬はプラス改定されました。分娩に関しては、ハイリスク妊婦の管理加算が新たに設けられました。しかし、実際はハイリスク妊婦の要件が厳しく、

当院では産婦人科医の考えるハイリスク分娩は多いのですが、その要件を満たすのは月に一〜二名程度です。ちなみに分娩件数は月平均六十六件です。産婦人科医の考えるハイリスクとは大きな隔たりがあり要件が厳しすぎます。これでは、診療報酬改定で産科領域に手厚くしたとは言えません。厚生労働省も再考が必要ではないでしょうか。厚生労働省は医療費の抑制に躍起となっていますが、これ以上進めると、かつてイギリスで起こったような医療の崩壊を起こす

という大問題が生じる可能性があります。医師を始めとする病院職員のがんばりで何とか持ちこたえていると言っても過言では無いと思います。この問題を政府、厚生労働省はしっかりと認識してもらいたいと思います。心配なのは誰が責任を持ってこの問題に当たっているのかその顔が見えないことです。

本年七月から当院もDPC（包括評価による診療報酬制度）を導入しました。県内ではDPC導入三番目の病院となります。全国では三百六十病院がDPCを導入し、さらにDPC準備病院が三百六十五病院あり、今後増加する見込みです。DPC導入に当たっては調査用紙への記入による医師負担が増すと言う問題があります。協力をしてもらっています。当院ではクリニカルパスの導入件数も増加しつつあります。クリニカルパスについては、DPCの為というよりも、医師以外の医療スタッフ及び患者さんが治療の流れを理解出来るという点を重視しています。包括医療はアメリカ合衆国で始まり、それを参考に日本独

自の包括医療を導入された訳ですが、利点はどこにあるのでしょうか。医療費抑制の為、過剰診療を抑制する為でしょうか。粗診粗療が発生する可能性はありますが、医療の質の低下は結局は患者離れになると思います。DPCに関するデータは厚生労働省に集まりまますから、そのデータが分析され診療報酬点数を容易にコントロールしやすくなるという危惧があります。今後DPCがどのような方向に行くのかわかりませんが、大きな逆らえない流れであることは確かです。



当誌の名前の由来となった「天神神社（梅屋敷）」



診療科案内

産婦人科

産婦人科医長 伊東 敬之

産婦人科外来では妊娠された方、妊娠を希望する方、子宮や卵巣の病気に関しての診療を行っております。

一般の妊婦さん以外に、合併症をお持ちの方や、これまでの妊娠分娩に異常があった方など（ハイリスク妊娠）も対象とし診療を行っております。妊婦健診では毎回超音波断層法検査を行い胎児の大きさ、動き、羊水の量などを確認しております。最近では4D超音波断層装置の導入により、リアルタイムに立体的な胎児の姿を描出することが可能となり、妊婦さんにも胎児の動きなどがよりわかりやすく確認できるようになりました。当院では他診療科との連携のもと、ハイリスク妊娠の管理には特に重点を置いており、県内各地から妊婦さんが通院されております。子宮や卵巣の病気には大きく分けて二通りあります。一つは腫瘍性の病気（子宮筋腫や卵巣腫瘍等）、もう一つは卵巣や子宮等の

機能に問題が生じる病気です。

卵巣腫瘍は、卵巣が病的に大きくなる病気です。正常な卵巣は出産年齢の女性の場合で3cmぐらいの大きさです。ところが腫瘍ができる大きくなり、場合によっては赤ちゃんと同じぐらいまで大きくなることもあります。卵巣の病気は自覚症状がほとんどなく、おなかが大きくなって産婦人科に受



ICU

診したら大きな卵巣腫瘍があったということも少なくはありません。卵巣腫瘍の場合良性のものとも悪性のものであります。画像診断（超音波断層法、CT、MRI等）や血液検査等で鑑別診断されますが最終的な確定診断は、手術を行い、病変を切除し、その顕微鏡の検査（病理検査）でなされます。手術の方法は一般的にはおなかを開ける開腹手術が行われますが、良性の腫瘍の可能性が高い病変に対しては腹腔鏡の手術も行われます。腹腔鏡の手術の場合、傷口が小さいため、手術による侵襲が少なく、術後の回復も早く、開腹手術に比べ早期退院が可能になります。

子宮筋腫は良性の病気で、子宮にいくつかコブができる病気で、生理の出血が多くなり、貧血を指摘されて産婦人科に受診して見つかる方、おなかに硬いものを触れて受診して見つかる方などがありますが、何も症状がなく子宮がん健診の時や、妊娠し産婦人科を受診した時に発見されるケースも少なくありません。大きなものや、症状を伴う場合には治療が必要になります。治療には手術をする方法と薬による方法があります。

子宮癌は子宮頸癌（子宮の入り口に出来る癌）と子宮体癌（子宮

の奥にできる癌）があります。一般に子宮癌検診という子宮頸癌の検査をおこないます。子宮頸癌は子宮の入り口に出来る病気で、検査がしやすい場所に発生します。そのため、定期的な癌検診をうけることで、症状が出る前の初期の子宮癌を発見することも可能です。いずれの癌も初発症状としては不正出血により見つかることがあります。最近では子宮頸癌の発症の低年齢化がすすんでおり、二十歳代の子宮頸癌の発症も見られるようになっております。子宮頸癌は早期発見が重要ですので、定期的な子宮癌検診を受けることをお勧めいたします。

卵巣の働きが乱れると様々な症状が現れます。本来卵巣は女性ホルモンを分泌し、それにより生理が起ります。また卵巣から排卵が起こることによって妊娠が可能になります。女性ホルモンのバランスが崩れたり量が減少すると、月経の周期がみだれ、生理が不規則になり、子供さんが出来にくくなることもあります。また、年齢によっては、顔のほてり感、汗をかきやすくなる、動悸、冷え性などの更年期障害の症状が出てきます。これらの症状は自然に回復することもあります。回復しないような場合にはホルモン剤などの薬によ

る治療を行うこともありませう。
産婦人科の病気は女性の方にと
っては身近な病気ですが、実際には
気軽に診察を受けるには抵抗が
あるというのが現状のようです。
われわれの日常診療において思う

ことは、「もう少し早く受診され
ていれば、違った結果におわった
のに」と思うことがしばしばあり
ます。心配なことがある時には、
気軽に産婦人科を受診し相談して
いただければとおもいます。

職場紹介

6 病棟

6病棟看護部長 藤巻 好廣



暑かった夏も去り、過ごしやす
い季節となりました。

当病棟は、重心棟三階建ての一
階にある重症心身障害病棟です。
今年の十月で旧西甲府病院から甲
府病院に移転し二年経ちます。患
者さまに関わる病棟スタッフは担
当医師と看護師・看護助手・児童指
導員・保育士が勤務しています。

病床数は四十床で、現在二十九
名が入院しています。一般入院と
違い、障害を持つため長期に入院
しており、入院期間の最も長い患
者さまは三十八年間になります。
平均年齢も四十歳になりました。
患者さまは重度の身体障害と重度
の知的障害を併せ持つため、いざ
りや四這い等の自力移動可能な患
者さまは半数で、他の患者さまは

寝たきりで自ら身体を動かすこと
ができません。コミュニケーション
も半数の患者さまが取れません。

医療については、約十年前まで
は患者さまも元気で、療育中心に
入院生活を送っていました。近年
は呼吸が十分に出来なくなつた
り、食事が経口的に摂取できなく
なつたりして、医療を必要とする
患者さまが多くなり、気管切開や
必要に応じ人工呼吸器が装着さ
れ、また、栄養が取れるよう胃に
直接、チューブを留置する胃瘻造
設が行われています。現在、呼吸
管理の患者さまは五名、経管栄養
管理の患者さまは十名います。

呼吸管理の必要な患者さまは、
自ら唾液や痰を出すことができな
いため、看護師は常に吸引を行い、

呼吸を楽にするために自分で動か
すこともできない身体を左右に移
動させたり、上半身を起こしたり
して、呼吸状態を悪化させないよ
うしています。医師・看護師は常
に患者さまの呼吸を助け、十分な
栄養摂取ができるようケアを行っ
ています。

患者さまも、年々変化していく
中で、毎月一回合同カンファレン
スを開催し、病棟スタッフに栄養
士・理学療法士が加わり、治療・
看護・療育・栄養・身体面から患
者さまの状態把握と検討を行い、
今後の方向性を出し、患者さまの
健康管理に努めています。

療育については、入院が生活の
場でもあります。日常生活はもち
ろん、病棟スタッフが関わり、ま
たボランティアの方の協力も得
て、年間の季節行事を中心に「節
分」「夏祭り」「運動会」
「クリスマス会」「社会見
学」等を行い、ベッド上
での生活以外の充実した
入院生活を送れるよう頑
張っています。

教育では、義務教育の一
環として、学童児に対
し養護学校教諭による訪
問教育が行われています。
現在小学生二名、中
学生の一名が、ベッド上

での授業になります。頑張つて勉
強しています。来年度には四名に
なります。

重症心身障害患者さまに対して
は、医療から教育まで幅広い関わ
りが必要となり、医師・看護師は
もちろん、他部門の医療スタッフ
の方、また病院外の多くの方々に
支えられて入院生活を送られてい
ます。

短期入所事業も医療連携室と連
携を取り行っており、在宅で家族
の方が看ている子供さんについて
も、積極的に短期入所の受け入れ
を行っています。

十月から、障害者自立支援法が
開始になります。重症心身障害児
者に関わるスタッフは、今までと
変わらない充実した医療と看護・
療育が提供できるよう努めていき
ます。



瑞穂山の秋景色

外来診療担当表

平成18年9月1日現在		月	火	水	木	金
内科	1	渡邊	川口	渡邊	渡邊	渡邊
	2	黒澤	黒澤	黒澤	川口	黒澤
	3	川口	尾畑	高木	中尾	高木
	4	高崎	高崎		高崎	
	5					
脳神経外科	5		長沼			長沼
特殊外来 午後3:00~		高木		高崎		高崎
精神科			平野・塩江			
消化器科		河口	稲岡	稲岡		河口
小児科 神 経 外 来 (午後) 外 来 (午後) 外 来 (午後)	1	久富	稲見	久富	久富	稲見
	2	加藤	田口	斉藤	加藤	田口
	3	中根	神谷	中村	中根	野口
	3	中村	野口	神谷	第1週 島山 第2週 神谷 第3週 小野	中根
外科		鈴木	角田	角田	鈴木	角田
整形外科	1	萩野	原田		萩野	萩野
	2		落合	落合	落合	千賀
泌尿器科		相川	川口	相川	相川	相川
産婦人科	1	深田	深田	高木	深田	深田
	2	伊東	高木	伊東	伊東	高木
	3	小笠原・小室				奥田・須波
眼科		古市	古市	古市	手術日	古市
耳鼻咽喉科					矢崎	

※乳児健診(小児科) 毎週火・木曜日 (完全予約制)
 ※予防接種(小児科) 毎週水曜日 (完全予約制)
 ※人間ドック 毎週火曜日 (完全予約制)
 ※脳ドック 毎週火・金曜日 (完全予約制)
 ※高齢者検診 毎週月・木曜日 (完全予約制)
 ※結核検診 毎週月・水・金曜日 14時から16時
 ※毎月第4金曜日 黒澤医師 糖尿病教室

看護職員を募集しています。

【お問い合わせ先】看護部長室

TEL/055-253-6131(代)

FAX/055-251-5597

編集後記

立秋も過ぎ、早、残暑の候となりましたが、まだまだ暑い日が続いています。

しかし、この頃では、季節を先取りしたかの様に赤トンボを見かける様になりました。

そう言えば、朝晩も一時に比べ過ごしやすくなり、日増しに秋の訪れを感じます。

さて、秋と言えば、食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋、皆様はどの秋がお好きでしょうか。

スポーツと言えば、当院は、九月二日(土)、長野県と山梨県内の旧国立病院間での球技大会に参加しました。

大会は、六病院が参加し、野球、排球、庭球、卓球の四競技が実施され、当院は庭球で優勝しました。

勝っても、負けても、選手の皆様は、スポーツを存分に楽しんだことと思います。

最後に、季節の変わり目の候、夏の疲れが出る頃ですが、皆様方には、どうぞお体ご自愛下さいませお願いいたします。(山)

医療連携室直通電話

TEL 055-240-6253(代)
 FAX 055-240-6225